

# ■⑤-3 美しいフォルムの形成についての検討



## ○高欄形状についての比較

標準案として採用

半壁高欄

全壁高欄



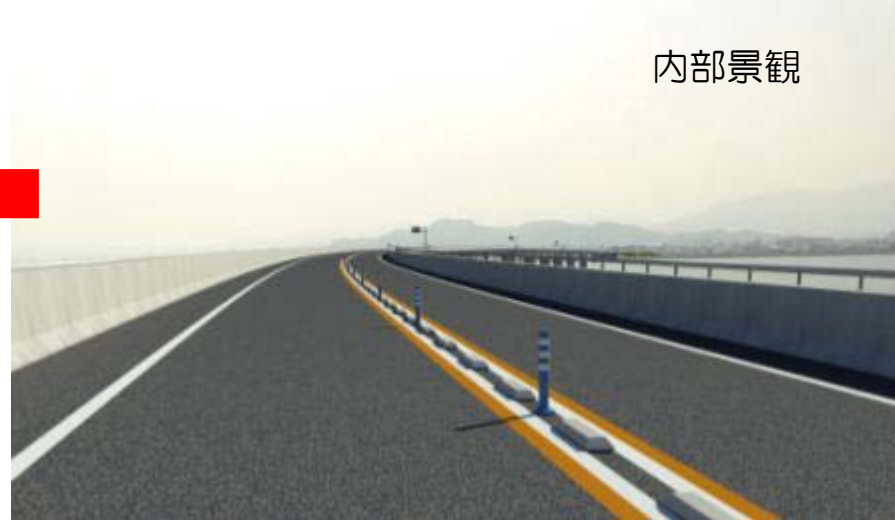
外部景観



外部景観



内部景観



内部景観

壁高欄を半壁高欄にすることで、外部径間は、桁の見え高を抑えることとなり、内部径間は、両側の吉野川と海の見通しに開放感が生まれると考えられる。

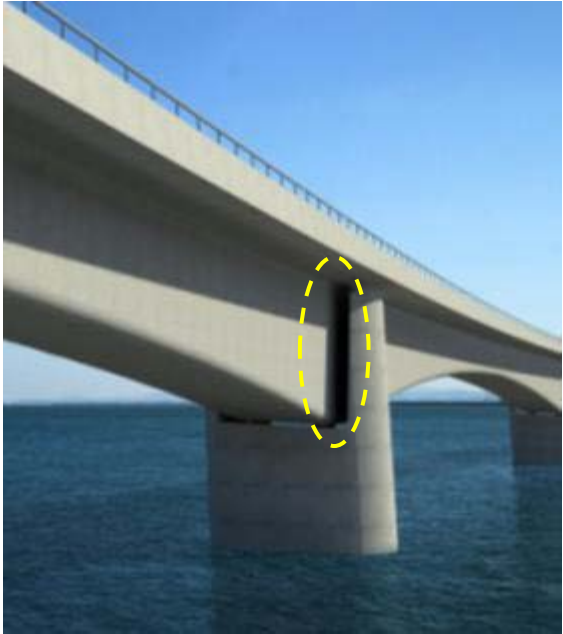


# ■⑤-3 美しいフォルムの形成についての検討

## ○斜ウェブの効果についての検討

標準案として採用

斜ウェブ



垂直ウェブ



桁を斜ウェブにすることで、柱頭部に斜めの影ができ、渡河橋のシンプルなシルエットが活かされると考えられる。

# ■⑤-3 美しいフォルムの形成についての検討



## ○橋脚形状について検討

標準案として  
採用

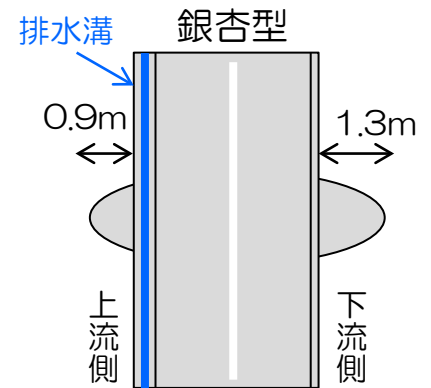
小判型

銀杏型



小判型にした場合、上部工床版の影の範囲が上部工側面まで収まっており、すっきりとした橋脚が連続する景観となる。

また、銀杏型にした場合、天端が上部工幅からはみ出るため、将来的に水汚れ等によって景観性が劣る可能性があり、さらに鳥類のとまり場になる可能性があると考えられる。



# ■⑤-3 美しいフォルムの形成についての検討

## ○橋台形状についての検討

標準案として  
採用

床版張出有り



床版張出無し



橋台端部を張出床版にすることで、橋梁本体との張出ラインを連続させることができ、橋台背面の連続カルバート化と合わせて、橋梁本体との一体感が形成されると考えられる。